

学年
通信

魂知輪

令和6年 12月6日
第 33 号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

『知らない』ということが一番の…

道徳の話の中に出てきた『ネルソンマンデラ』さんが亡くなって今日で11年になります。道徳の教科書が新しくなって、マンデラさんの話が教科書に掲載されるようになりました。それから、3年生の担当になった時には必ず、12月になると『虹の国—ネルソンマンデラ—』の授業をしてきました。昨日の授業は通算で5回目のマンデラさんでした。

はじめに、「なぜ差別が生まれるのだろうか」という問いかけをしました。

- ・一人一人違うから
- ・他の人より優位に立ちたいから
- ・他人と比べるから

本文を読んだ後、「アパルトヘイトが終焉を迎えたが、マンデラはなぜ『まだ終わっていない』と言って戦い続けたのだろうか」という問いかけをしました。いつもは、2問くらい先に考えて、そのあとメインディッシュを考えるという授業でしたが、今回は、メインの質問だけにすべての時間を注いでみました。黒板が、みなさんの発表した言葉だけでいっぱいになりました。道徳の授業では、「多面的・多角的に物事を捉える」ことができるようにしてくださいね、というミッションが私たち先生に与えられています。難しい言葉なので、分かりやすく説明すると、課題となっている物事について、歴史・文化・経済的な背景を知り色々な方向から見て考える、関わっている人々について、それぞれの立場に立って考えるということです。

全員に発表をしてもらいました。挙手が美しい人、数人が同時に挙手をしたために、発表をする順番を待ってもらった人がいて、その人には、会話のキャッチボールを他の人より多くさせてもらいました。その中で、心の中にある思い(≡心の壁)に注目してくれた人が多く、本文の中にも出てきた『心の壁』について、追加で質問をすることになりました。

・知ろうとしないで、勝手に作り上げた価値観

・頭の中だけで想像した都合の良い考え

という意見を出してくれました。

はじめに問いかけた答えが、最後に着地したように感じました。「知らないこと、無知であること」に感情が伴い、偏見が生まれ、差別につながるのかもしれないね。

私たちにできることは、「差別をなくそう」という思いを発信することよりも、「知ろうとする」、「視野を広げる」ということが、新たな差別を生み出さない一歩なのかもしれません。



聞き手に興味を持たせる話し方

終学活の1分間スピーチ。最近では日直のスピーチの後に質問を取り入れました。1, 2問質問は出ますが、出にくい時には私が手を挙げて尋ねることも増えてきました。

さて、なぜ質問が増えないか。それは、話し手の話術にポイントがあります。

起承転結を守った構成で話す (言いたいことをまとめる)

5W1Hを意識した話し方 (耳からの情報から情景を)

聞いている人にとってメリットとなる情報を提示する

共感させるポイントを入れる (話題の精選)

抑揚・表情・ジェスチャーで表現する (目で得る情報も大事)



下に行くほど難易度が上がると私は思っていますが、どれも大切なことだと思っています。話をパッと思いつき、何も考えなくてもどんどん言葉が出てくる人もいれば、難しく感じる人もいるでしょう。そんな時は、上に示したことを意識してみてください。これは、中学校生活だけでなく、大人になっても使えます。もちろん私も意識していることです。ぜひ、参考にしてください。

梅子からの挑戦状(答)

I think that that that that that boy wrote is wrong.
(接続詞)(あの that) (関係代詞)(あの少年)

あの少年が言った"that"は間違っていると思う。

$$(x - a)(x - b) \cdots (x - z) = 0$$

なぜなら、途中に (x - x) があるから

受験で問題が 1000 個出題されるのはどんな学校?

専門学校 (1000 問学校)